
理科分科会

I 研究のあゆみ

4月23日（火）	2024年度名教組教研オリエンテーション （2024年度名教組教育研究活動の進め方） 第1回理科分科会（同時開催）（研究の進め方・研究テーマの検討）	【教育館】
5月2日（木）	発表テーマ報告・集約	
5月7日（火）	第2回理科分科会（第1次実践の計画・検討）	【鳴子台中】
6月	全体での会は開かなかったものの、個別に検討	
7月下旬	第3回理科分科会 （第1次実践の振り返り、第2次実践の計画・検討、レポートの検討）	【グループ実施】
8月	全体での会は開かなかったものの、個別に検討	
9月2日（月）	第4回理科分科会（当日に向けてリハーサル）	【鳴子台中】
9月21日（土）	第74回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

II 今年度の実践について

理科分科会では、小学校から14本、中学校から17本の計31本のレポートが提出された。子どもが自ら考えた問いを基に仮説を立て、探究活動に取り組むことができるようにするため、教材との出会いの場面や、学習者用タブレットなどのICTを活用した疑問の共有方法等に工夫を凝らす実践が報告された。また、既習知識を活用しながら仮説を立て、実験結果を振り返り、実験方法や仮説を見直すことで、主体的に学習に取り組む子どもの育成をめざす実践などが報告された。多くの授業実践が科学的探究活動を重視しており、教材の工夫や子どもの思考に沿ったワークシート、話し合いの形式についての工夫が見られた。これらの実践は、今後の理科授業を考えるきっかけや手助けとなることが期待される。

III 今後に残された課題

- 自分で問題を見だし、調べたいことを追究する子どもを育てるため、事象提示の工夫や追究過程の工夫を行っていく。
- 仲間と共に学び合う理科学習を実現するために、グループで考えるときの共通の思考ツールを提示したり、考えたい・学びたいと思う課題を設定したり、教員側からのヒントを与えるタイミングを工夫したりする必要がある。
- より充実した探究活動に取り組ませるために、子どもが考える時間を十分に用意する必要がある。
- 単元によってICT機器の適切な使用方法を工夫し、多くのデータを集めながら、科学的に分析できるようにしたい。
- 自然を理解し、愛することのできる子どもを育てるために、教科書や動画等で学習するだけでなく、実際に実物の生物に触れさせる必要がある。また、1種類の生物ではなく、様々な生物を比較しながら観察できるように、観察時間の充実を図る必要がある。